

佐野 上山先生と初めてお会いしたのは確か一九八〇年頃、日本脳神経外科学会の席でしたね。私のほうが上山先生より三年ほど上になりますけれども、先生の師匠である伊藤善太郎先生とは仲が良くて、彼がいた秋田県立脳血管研究センターを訪ねては、「この

患者さんと共に最後まで戦うのが名医 佐野 上山先生と初めてお会いしたのは確か一九八〇年頃、日本脳神経外科学会の席でしたね。私のほうが上山先生より三年ほど上になりますけれども、先生の師匠である伊藤善太郎先生とは仲が良くて、彼がいた秋田県立脳血管研究センターを訪ねては、「この

手術はああでもない、こうでもない」と、よくお喋りしました。上山 だから、関係としては、佐野先生は僕の兄貴分ですよね。野先生は六十歳を過ぎて気ついたことがあります。それは医者には治せない病気がたくさんある、医者はいろんなテクニックを使って、患者さんたちの生活の質が下がらないよう、キープしてあげることしかできないということです。

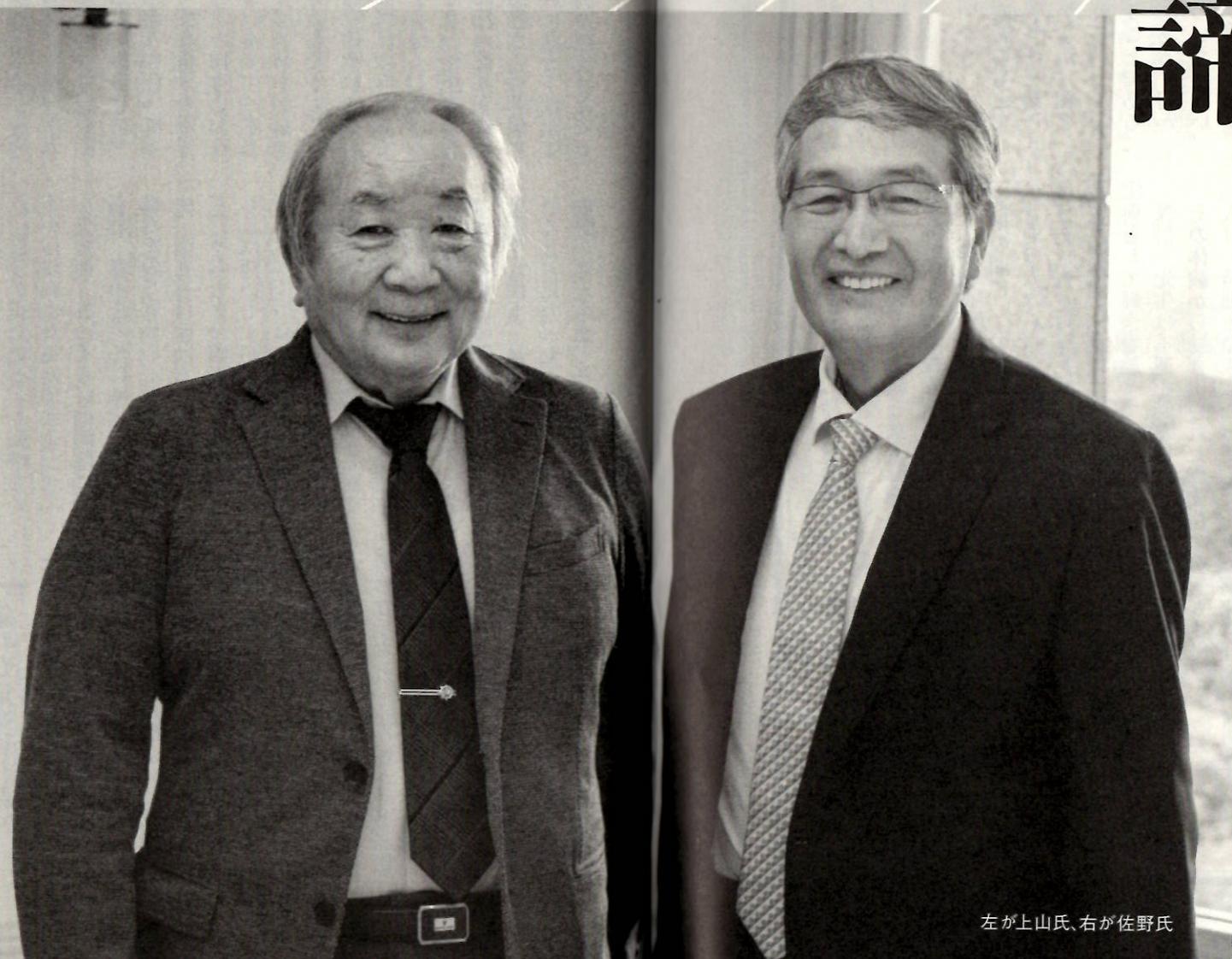
特に脳外科医が対処できる病気というのはごく限られる。例えば認知症なんて脳外科医は何もできません。それでも限られた病気へ手術のクオリティを徹底して高めようと闘ってきたのが佐野先生であり、僕だと思っています。上山 そうですね。ただ、もう少しそうすると、私たちがやってきた手術はなくなっていくかもしれません。ひと昔前には、くも膜下出血

多くの医者が「治らない」「助からない」と匙を投げた患者さんを「最後の砦」として受け入れ、命を救い続けてきた脳神経外科医がいる。佐野公俊氏と上山博康氏である。戦後日本の脳神経外科を牽引し、患者さんのために己のすべてを懸けて病気と闘い続けるお二人に、後進に伝えたい人生・仕事の要諦を語り合っていただいた。

## 対談

**佐野公俊**  
総合新川橋病院 副院長  
禎心会脳疾患研究所 所長

**上山博康**



左が上山氏、右が佐野氏

# 医の一途を歩み続けて掴んだ仕事の要諦

さの・ひろとし——昭和20年東京都生まれ。45年慶應義塾大学医学部脳神経外科入局。51年藤田保健衛生大学赴任。同救命救急センター長、藤田保健衛生大学医学部脳神経外科主任教授などを歴任し、平成22年同大学名譽教授、同大学医学部脳神経外科客員教授。総合新川橋病院副院長、脳神経外科顧問。日本脳神経外科学会理事・監事、世界脳神経外科連盟脳血管障害部門委員長など要職多数。12年、13年開発したクリッピング手術数でギネスブックにも登録。現在、主に川崎と名古屋で手術と外来を行っている。

かみやま・ひろやす——昭和23年青森県生まれ。48年北海道大学医学部卒業、同部脳神経外科教室に入局。55年秋田県立脳血管研究センターへ転勤。60年北海道大学医学部へ戻り、同部助手、講師などを経て、平成4年旭川赤十字病院脳神経外科部長に赴任。10年より同院急性期脳卒中センター長を兼任。24年より社会医療法人禎心会脳疾患研究所所長。

# 根 鈍 運 集 特

した。叔父からも脳外科医になりました。大学で病院実習をしました。でも、大学で病院実習をした時に、耳鼻科の鼓室形成などで使われていた手術用顕微鏡を見て、「これは脳外科に持つてくれば正確な手術ができるんじゃないか、自分が日本で最初にマイクロサージャリー（顕微鏡手術）をやろう」と思って脳外科に入ったんです。

上山 新しい道を切り開いていくことを決意された。

佐野 それで研修医時代、その頃はまだ車一台分くらいの値段がしたハンディマイクロスコープを月賦で購入し、それをいろんな病院に持つていって手術しました。皆科に入つて一年目から顕微鏡手術に関するほとんどを担当させてもらえるようになつたんですよ。

当時、脳外科でやっていたのは

血だらけの手術で、止血が難しいです。血を出してから止めるので

はなしに、出さないでやると。

で、一九七六年に新設の藤田保

健衛生大学に行つたのですが、脳

外科医が私を含めて四人しかいませんでした。それも一人はインドからの留学生だから実質は三人でした。卒業生が出るのも私が行つた二年後ですし、出た後でも彼らにすぐ手術させるわけにもいきませんから、結局五年、十年は全部自分で手術しなくてはいけませんでした。膨大な数ですよ。そうして数を重ねていく中で技術が飛躍的に伸びていったんです。これが私の外科医としての原点だね。

上山 とはいっても、顕微鏡下での手の操作など、かなりの努力、訓練を積まれたのではないか。佐野 ええ、最初は毎日三十分ほど顕微鏡下で手を動かす練習をしたり、利き手ではない左手で食事をするなど訓練を続けました。

あとは、伊藤善太郎先生もそ

うけれども、上手な先生がいる

と耳にすれば、実際に手術を見に行つて「なるほど。ああいうふう

に手を動かせばよいのか」「あの先

生はこうやっている」などと、

先生は手を動かせばよいのか」「あの先生は吸引管をこう持つけど、あの

鏡を使えばそもそも血が出ないん

です。血を出してから止めるので

はなしに、必ず手術室に入れる

いきました。手術は外で見るんじ

やなくて、必ず手術室に入れても

らつっていましたね。やっぱり顕微

教育のために、その病院の先生にも手術を見に来てもらいました。

上山 僕はね、難しくて自分では手術できないからと、後輩が別の病院に紹介状を書いた時には、その文面に「悔しいけれども、いまは実力がなくてできません」とひと言加えろって言うんです。要するに、「次はやってやる」という気合いがないと駄目なんだよと。また、今後も同じ症例でずっと紹介状を書くつもりなら、とつとと医者を辞めろって叱るんです（笑）。

だから、いまの若い医者はスマートなんです。のうち回って、無様な姿を見せてでも自分の限界を求める、患者さんと向き合おうとする泥臭さがないんです。本当に格好いい人って、スマートじゃない。必死な泥臭い人ですよ。

佐野 そうだよね。簡単にできる症例だけやつていればスマートでいられる。私も手を尽くしたけれど麻痺を出してしまった患者さんのリハビリを見に行つたり、亡くなってしまった患者さんの葬儀に参列して、ご遺族に頭を下げたことがあります。「力及びませんでし

るから裁判になるんですよ。

少し前、五つくらいの病院に断られた、いためにやつてきた患者さんのが家族に、「難しい症例です、やらなきゃ百分百死にます。勝ち目は薄いですが、やらせてください」とて伝えたら、「その言葉を聞いたかったんです」と泣き出しましたよ。そこを見捨てたら医者

がやらなきゃ百分百死にます。勝ち目は薄いですが、やらせてください」とて伝えたら、「その言葉を聞いたかったんです」と泣き出しましたよ。そこを見捨てたら医者

がやらなきゃ百分百死にます。勝ち目は薄いですが、やらせてください」とて伝えたら、「その言葉を聞いたかったんです」と泣き出しましたよ。そこを見捨てたら医者

がやらなきゃ百分百死にます。勝ち目は薄いですが、やらせてください」とて伝えたら、「その言葉を聞いたかったんです」と泣き出しましたよ。そこを見捨てたら医者

がやらなきゃ百分百死にます。勝ち目は薄いですが、やらせてください」とて伝えたら、「その言葉を聞いたかったんです」と泣き出しましたよ。そこを見捨てたら医者

がやらなきゃ百分百死にます。勝ち目は薄いですが、やらせてください」とて伝えたら、「その言葉を聞いたかったんです」と泣き出しましたよ。そこを見捨てたら医者

がやらなきゃ百分百死にます。勝ち目は薄いですが、やらせてください」とて伝えたら、「その言葉を聞いたかったんです」と泣き出しましたよ。そこを見捨てたら医者

## 事前の準備を徹底する

上山 たくさん手術、難しい症例に向きていく中で、特に心掛けてきたことはありますか。

佐野 私の場合は、どんなに易い症例でも、ちゃんと縫にかけて手術を確立していくんです。

佐野 うちはいません。試行錯誤しながら自分なりのやり方、佐野式の手術を確立していくんです。

佐野 ちなんに、その手術はうま

いことでも助かる可能性があれば手術をやる。絶対に逃げない。その信念を貫いてからこそ、佐野先生も僕も、「最後の砦」と呼ばれるようになつたんでしょう。

上山 ところで、佐野先生はどのようなきっかけで医者の道、脳外科の道を志されたのですか。

佐野 私は母方が医者の方で、母親から「医者になれ、医者になれ」と洗脳され続けてきたんですね。また、父親が時計屋を営んでいたこともあって、子供の頃からものをつくるのが好きでしたね。

佐野 私は内科医でしたが、自分は医者になるなら、手を動かす外科医がいいだろうと考えたんです。なぜ外科の中で脳外科を選んだかということですが、当時はバイ

ー・ラ（止血器）やCTもありま

せんでしたから、「脳の手術をした

ら死んでしまう」といわれた時代

## 日本の脳外科

### 新たな道を切り開く

上山 たの手術、難しい症例に向きていく中で、特に心掛けてきたことはありますか。

佐野 私の場合は、どんなに易い症例でも、ちゃんと縫にかけて手術を確立していくんです。佐野式の手術を確立していくんです。そこで先ほど言つたように、とにかく上手な医者の手術を見て学ぶ。また、大したことないなと思っている人でも、実際はいいところをいっぱい持つていています。それを少しづつ取り入れていけば、自分なりのやり方を確立していくと思います。

佐野 うちはいません。試行錯誤しながら自分なりのやり方、佐野式の手術を確立していくんです。佐野先生も僕も、「最後の砦」と呼ばれるようになつたんでしょう。

上山 ちなんに、その手術はうま

いことでも助かる可能性があれば手術をやる。絶対に逃げない。その信念を貫いてからこそ、佐野先生も僕も、「最後の砦」と呼ばれるようになつたんでしょう。

上山 ところで、佐野先生はどのようなきっかけで医者の道、脳外科の道を志されたのですか。

佐野 私は母方が医者の方で、母親から「医者になれ、医者になれ」と洗脳され続けてきたんですね。また、父親が時計屋を営んでいたこともあって、子供の頃からものをつくるのが好きでしたね。

佐野 私は内科医でしたが、自分は医者になるなら、手を動かす外科医がいいだろうと考えたんです。なぜ外科の中で脳外科を選んだかということですが、当時はバイ

ー・ラ（止血器）やCTもありま

せんでしたから、「脳の手術をした

## 日本の脳外科

### 新たな道を切り開く

上山 たの手術、難しい症例に向きていく中で、特に心掛けてきたことはありますか。

佐野 私の場合は、どんなに易い症例でも、ちゃんと縫にかけて手術を確立していくんです。佐野式の手術を確立していくんです。そこで先ほど言つたように、とにかく上手な医者の手術を見て学ぶ。また、大したことないなと思っている人でも、実際はいいところをいっぱい持つていています。それを少しづつ取り入れていけば、自分なりのやり方を確立していくと思います。

佐野 うちはいません。試行錯誤しながら自分なりのやり方、佐野式の手術を確立していくんです。佐野先生も僕も、「最後の砦」と呼ばれるようになつたんでしょう。

上山 ちなんに、その手術はうま

いことでも助かる可能性があれば手術をやる。絶対に逃げない。その信念を貫いてからこそ、佐野先生も僕も、「最後の砦」と呼ばれるようになつたんでしょう。

上山 ところで、佐野先生はどのようなきっかけで医者の道、脳外科の道を志されたのですか。

佐野 私は母方が医者の方で、母親から「医者になれ、医者になれ」と洗脳され続けてきたんですね。また、父親が時計屋を営んでいたこともあって、子供の頃からものをつくるのが好きでしたね。

佐野 私は内科医でしたが、自分は医者になるなら、手を動かす外科医がいいだろうと考えたんです。なぜ外科の中で脳外科を選んだかということですが、当時はバイ

ー・ラ（止血器）やCTもありま

せんでしたから、「脳の手術をした

ら死んでしまう」といわれた時代

た」って。でも、難しい症例や辛

いことから逃げていたら、絶対に成長はないですし、一所懸命に誠意を尽くせば、その姿勢は患者さ

んやご家族にも伝わるんです。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も徹底して患者さんと一緒に戦つてあげる。沈む船であっても最後

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

## 日本の脳外科

### 新たな道を切り開く

上山 たの手術、難しい症例に向きていく中で、特に心掛けてきたことはありますか。

佐野 私の場合は、どんなに易い症例でも、ちゃんと縫にかけて手術を確立していくんです。佐野式の手術を確立していくんです。そこで先ほど言つたように、とにかく上手な医者の手術を見て学ぶ。また、大したことないなと思っている人でも、実際はいいところをいっぱい持つていています。それを少しづつ取り入れていけば、自分なりのやり方を確立していくと思います。

佐野 うちはいません。試行錯誤しながら自分なりのやり方、佐野式の手術を確立していくんです。佐野先生も僕も、「最後の砦」と呼ばれるようになつたんでしょう。

上山 ちなんに、その手術はうま

いことでも助かる可能性があれば手術をやる。絶対に逃げない。その信念を貫いてからこそ、佐野先生も僕も、「最後の砦」と呼ばれるようになつたんでしょう。

上山 ところで、佐野先生はどのようなきっかけで医者の道、脳外科の道を志されたのですか。

佐野 私は母方が医者の方で、母親から「医者になれ、医者になれ」と洗脳され続けてきたんですね。また、父親が時計屋を営んでいたこともあって、子供の頃からものをつくるのが好きでしたね。

佐野 私は内科医でしたが、自分は医者になるなら、手を動かす外科医がいいだろうと考えたんです。なぜ外科の中で脳外科を選んだかということですが、当時はバイ

ー・ラ（止血器）やCTもありま

せんでしたから、「脳の手術をした

ら死んでしまう」といわれた時代

た」って。でも、難しい症例や辛

いことから逃げていたら、絶対に成長はないですし、一所懸命に誠意を尽くせば、その姿勢は患者さ

んやご家族にも伝わるんです。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も徹底して患者さんと一緒に戦つてあげる。沈む船であっても最後

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

くいつたのですか。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

くいつたのですか。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

くいつたのですか。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

くいつたのですか。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

くいつたのですか。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

くいつたのですか。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で

まで逃げないで乗り越えてくれる医者。それが名医だと思います。

くいつたのですか。

上山 うまくいきました。手術が

終わり、ご家族のもとにいった私

の第一声が「勝ちました！」です。

上山 私も失敗した時には、すぐ

も震えるぐらい嬉しかった。

だから、どんなに難しい状況で



# 「たとえ刀折れ矢尽きても歯が残っているなら医者には必要です」——上山博康

時、ふと伊藤先生の言葉が出てきたんです。

「患者は命を懸けて医者を信頼して手術台に上るんだ。おまえはそれなんて答える?」

佐野 とても重い言葉ですね。

上山 若い頃は伊藤先生の問いに答えられませんでした。でも、この時に先生の言葉の重さを本当に理解できたんです。それで、命懸けの信頼を寄せてくれた患者さんに言い逃れするようでは人間が駄目になると、ご家族に土下座して

大きな腫瘍だったので、もう少し入るだろうとさらに注入したところ、二本のクリップが開いて全部脳幹に流れていってしまった。顕微鏡を見て、あつ、これはもう駄目だつて分かりましたよ……。

その瞬間、時間が停止して違う次元へ飛んでいったというか、目の前がクラクテして、自分がどこにいるかも分からなくなつたんです。脳裏には、手術前の患者さんの笑顔が浮かんでいました。「俺には独り立ちできない子供が二人いるから、まだ死にたくないんだ。先生に任せるから頼むよ」

ただ最初はどうやって言い逃れをしようか、そばっかり考えていたんですね。ところが、そんな

私が失敗しました。許してください」と泣いて謝りました。

すると、奥様は泣いたままでしたが、高校生のご長男が涙ながらに、「お父さんは上山先生のことが好きで、信頼して手術を受けると言いました。その先生が一所懸命にやつたことだから、仕方がありません」と言ってくれて……。

結局、訴訟にはならなかつた。

それからです。上に何を言われてもノー、地位などのためではな

く、患者さんの病気を治すことだけに専念しようと決めたのは。

佐野 覚悟を決められた。

上山 それから周囲と衝突することも多くなり、「上山が言うことを聞かない」と、うちのかみさんが上司に呼び出されたこともあります。(笑) ただ、そのことでかみさんも、僕が信念を持ってやつてることが分かり、「何があつてもついて行きますから」と、応援してくれたようになつたんです。

そして、土下座した手術から一年後、一九九四年に旭川赤十字病院に飛ばされました。この段階で、もう教授になるなんて将来はないですよ。でも、それで治療に百分率専念できるようになって、よき仲間に恵まれ、どんどん難しき症例に挑んでいったんです。いろんなことに踏ん切りがつきましたから、私のような心根の卑しい人間にとっては逆に飛ばされたのがよかつたのかもしれません。

その中で、NHKの「プロフェ

ッショナル仕事の流儀」に取り上げられて、段ボール三箱くらい相談や応援のメッセージをいただきました。で、かみさんと一緒に夜二時頃まで段ボールの中身を片付けていた時、彼女がぽつり「教授になれないよかってね」と言つたんです。私のことをよく理解してくれるからこそ言える言葉でした。

佐野 転機かどうかは分かりませんけれども、AVM(脳動静脈奇形)の子の手術をした時に、いろいろと想定外のことが起こり、命は助けることができたものの、麻痺をつくってしまったんです。

この時に、たとえ自分が直接手術は最初から最後まできちんと見ていなければならないこと。立場を下さないところがあつても、手術は最初から最後まできちんと見ていなければならぬこと。

上山 佐野先生は、大きな転機になった手術などはありますか。

上山

佐野先生は、大きな転機になつた手術などはありますか。

佐野 転機かどうかは分かりませんけれども、AVM(脳動静脈奇形)の子の手術をした時に、いろいろと想定外のことが起こり、命は助けることができたものの、麻痺をつくってしまったんです。

この時に、たとえ自分が直接手術は最初から最後まできちんと見ていなければならぬこと。立場

すべての責任を受け止めるのがトップ

上山 佐野先生とお話ししてきて日本人の原点に戻っていくべきだ

らうと。日本人の原点とは何かといえば、それは己の信じる道、プライドのためなら死ねるという武士道であり、職人気質だと思うんです。日本人にはその原点をもう一度振りかざしてもらいたい。

佐野 同感ですね。

上山 特に命に関わる医者を志す人はなおさらです。消防や自衛隊

もそうでしょう。彼らが助けを求めてられて、「夜間労働になるので待つてもらいますか」なんて言えますか。そして消防・救急隊の一一番

直になつて我盡なほど仕事に没頭できる人を一流といふんです。

僕は医者の世界は「聖職」だと思っています。医者は患者さんの代わりに病気との「聖戦」を戦う兵士なんですよ。だから労働時間とか、お金とか、そんな価値観で仕事をやってほしくない。医者は勤務時間がどうだとか御託を並べる余裕があつても、必死に助け

のある人間は、すべての責任を自分で負わなければならないことを改めて教えられました。

上山 佐野先生は若くしてトップになられましたよね。責任ということでは大変だったでしょう。

佐野 ええ、助教授になつたのが五十五歳、教授になつたのが五十五歳でしたからね、責任ということも常に向き合つてきました。

上山先生の土下座の話にも通じますが、やっぱりトップの人は何であつても周りや部下のせいにしたら駄目ですよ。いろんな理由で上手くいかなかつたとしても、最後は自分が全責任を負うんだといふ姿勢で一所懸命やっていくことが大事です。それを「あいつが悪い

が大事です。

佐野 ええ、先生に任せたから

い」「誰がやつた」と、周囲のせいにするからおかしくなるんです。上山 私も若い頃、ある手術で大失敗した時、当時の上司に電話してすぐ来てもらったのですが、その上司は患者さんに触れててもいいのにさつと術着に着替えてご家族に謝罪されたんです。誰が手術したともいわずに。その姿から現場に任せても、責任はトップがとする。トップ・上司のあるべき姿を身をもつて教えられました。

努力をする者にのみ

佐野 上山先生とお話ししてきて改めて思うのは、一流になつていく人は、やっぱり、すべてを捨てて仕事に没頭しているということですね。そして没頭するためには好きであること、自分に向いていることを仕事にしないといけない。

上山先生もそうだと思いますけれども、私は本当に仕事が楽しくて仕方がなくつて、子供たちから

「普通のお父さんだつたらよかつた」って言われるくらい、一日中没頭していました。働き方改革なんて言つていられない(笑)。

藤田保健衛生大学の元総長である藤田啓介先生も、「努力をする者にのみ神の啓示はある」とおっしゃっています。だから好きな仕事に没頭する、努力をしなかつたら神の啓示もないですし、人生も開けていかないと思うんです。

上山 私も先生と同じ結論になりますが、自分が好きなことじやないことはないと思います。だから好きな仕事に格好いいとか、他人の価値観で人生を決めようとする。それは間違っています。自分が選んだ道だから続けられる。自分の本心に素直になつて我盡なほど仕事に没頭できる人を一流といふんです。

僕は医者の世界は「聖職」だと思っています。医者は患者さんの代わりに病気との「聖戦」を戦う兵士なんですよ。だから労働時間とか、お金とか、そんな価値観で仕事をやってほしくない。医者は勤務時間がどうだとか御託を並べる余裕があつても、必死に助け

く、患者さんの病気を治すことだけに専念しようと決めたのは。

佐野 覚悟を決められた。

上山 それから周囲と衝突することも多くなり、「上山が言うことを聞かない」と、うちのかみさんが上司に呼び出されたことがあります。(笑) ただ、そのことでかみさんも、僕が信念を持ってやつてることが分かり、「何があつてもついて行きますから」と、応援してくれるようになつたんです。

そして、土下座した手術から一年後、一九九四年に旭川赤十字病院に飛ばされました。この段階で、もう教授になるなんて将来はないですよ。でも、それで治療に百分率専念できるようになつて、よき仲間に恵まれ、どんどん難しき症例に挑んでいったんです。いろんなことに踏ん切りがつきましたから、私のような心根の卑しい人間にとっては逆に飛ばされたのがよかつたのかもしれません。

その中で、NHKの「プロフェ

佐野 纏める時が来たと思いました。

上山 もう居場所はない。と、

留先生に謝りにいった講師の先生  
がこう声をかけてくれたんです。

「あの後、すぐ教授室に行つたら、  
都留教授は開口一番、『上山つて  
骨あるな』って言つてたからな。  
明日は何事もなかつたようになら  
んと来いよ」と。実際、自分の机  
はないんじやないかつてドキドキ  
しながら出て行つたら、普段通り  
で何のお咎めもなかつたんです。  
これには後日談がありましてね。  
その十三年後、僕がある学会のシ  
ンポジウムで講演をした時に、退  
官して名誉教授になつていた都留  
先生が聴きにきました。

佐野 それは辛いですね……。  
上山 だから、自分に何ができる  
か真剣に考えた時に、帰すことし  
か思いつかなかつたんです。それ  
を知つた都留先生は目に涙を浮か  
べ、机をひっくり返してすごく怒  
りました。「俺は貴様が生まれる前  
から脳外科やつてゐるんだ。貴様ご  
ときの青二才に何が分かるか！」  
とつて。スープ二段目、二行切り

つて何度も泣きながら握手を求める  
られました。心が打ち震えるや  
がいのある世界です。それなのに  
快適な労働環境、お金もほしい、  
何がほしいでは贅沢です。  
**佐野** 僕たち、お給料は決して高くな  
かたたでしょね？  
**上山** ええ、高くはなかつた。  
り直せるとしたら、脳外科医をも  
う一回やりたいくらいですよ。  
**佐野** ただ、お給料が安かつたら、家  
庭内の権力もないんです（笑）。  
僕が三十五歳で大学の講師になっ  
た時、お給料は二十万そこそこ。  
当時、子供が二人いましたから、  
かみさんは近所の八百屋さんに働  
きに出ていました。いまだつたら

を求めてくる患者さんには、その余裕すらないんです。実際、正当な理由なく急患を断つ医者に辞めてもらつたことがあります。

**佐野** 本当にそうで、私たち医者は、手術の途中で「勤務時間が終わりましたから」なんていつてやめられるはずがないんですよ。

**上山** 医者は、頑張れば頑張った分だけ、感謝される仕事です。僕もこれまで患者さんから「助けていただいありがとうございます」とうございます」

厳しい道を選ぶことが  
運を招き寄せる

佐野 それから、これはテーマの「運鈍根」に通じますが、人間にあって、運命を決める分かれ道が何度もあって、その時に楽な方向にいってしまえば、運も開けていかないのではないかと思ひます。

駄目かもしれないけれども、常によりきつい方向にアンテナを立

そういう意味では、自分の心にも患者さんにも誠実、病気に対しても全身全霊で対処していく。それが神様の微笑みに背かないポイントではないかなと思います。

**上山** 僕は人生、仕事を大きく三分割するべきだと考えているんです。葡萄酒づくりと同じで、二十代三十代は夢中になつて葡萄を栽培する時期。四十年代五十年代は葡萄を熟成させていく時期、六十年代以降はできあがった葡萄酒を売つて暮らす時期。結局、何が言いたいかというと、最初によい葡萄が採れなければ、どんなに小手先で熟成を頑張っても、美味しい葡萄酒

が、何より先生たちに裸でぶつかっていったからだと思います。実は、僕は都留先生が手術する予定だった患者さんを勝手に帰した（退院させた）ことがあるんです。第三脳室のテラトーマ（奇形腫）の九歳の女の子でしたが、「手術したら植物状態になる」と両親に伝えて帰してしまった。というのは、その三年前、研修医一年生の時に初めて受け持つたのも同じ病気の九歳の女の子で、彼女はシャントを入れる処置で一度は元気になつたのですが、後の手術で植物状態になつたんです。僕はつきつきりで看病したのですが、半年

て進んでいく。そしてその方向に進んだなら、継続は力なりで頑張り続ける。もちろん、すぐ結果には繋がらない。何年もかけて根を掘り起こし、開墾して、やっと種を蒔くことができる。蒔いた種も芽はなかなか出ない。ほとんど人がその途中で嫌気がさしてやめてしまうのですが、へばりながらでも続けて、続けて、続けていくと、神様がちょっと甘い汁をくれたり、背中を押してくれるんで

上司に可愛がられる  
氣骨ある人間になれ

上山 気骨ある人間になれ  
上司に可愛がられる  
上山 あと、「運」ということでい  
えば、先ほど僕は恩師に可愛がられ  
たと言いました。それは器械の  
操作がうまかったこともそうです  
が、何より先生たちに裸でぶつか  
つていったからだと思います。  
実は、僕は都留先生が手術する  
予定だった患者さんを勝手に帰し  
た（退院させた）ことがあるんで  
す。第三脳室のテラトーマ（奇形  
腫）の九歳の女の子でしたが、「手  
術したら植物状態になる」と両親  
に伝えて帰してしまった。という  
のは、その三年前、研修医一年生  
の時に初めて受け持ったのも同じ  
病気の九歳の女の子で、彼女はシ  
ヤントを入れる処置で一度は元気  
になつたのですが、後の手術で植  
物状態になつたんです。僕はつき  
つきりで看病したのですが、半年

医者としての魂を  
次世代に伝承する

「努力をする者のみ神の啓示はある」の言葉を胸に、自分の力の限りを尽くしていきたいですね。

上山 僕も同じ思いですね。僕は二〇一二年、六十三歳の時に札幌禎心会病院に拠点を移したのですが、そこに「上山博康脳神経外科塾」をつくり、以後、学びにやって来る国内外の若手脳外科医を教えてきました。ただ、技術を伝えるのはもちろんですが、何より医者としての精神、心を繋ぐ人間を残しておきたいんですね。やっぱり誰にも治せないなら、その患者さんの死に水を自分がとつてやるというくらいの不屈の精神、たとえ刀折れ矢尽きても歯が残つているなら敵（病気）の喉元に食らいついていくほどの気合い。それがないと医者としては駄目ですよ。

その医者としての原点、武士道を一人でも多くの後輩たちに伝えていくべく、これからも闘い続けていきたいですね。

佐野 先生、きょうは貴重な機会をありがとうございました。

佐野 こちらこそ、あっという間の二時間でした。共に日本の脳外科のために頑張っていきましょう

